

三メ田遺跡

中国電力(株)特別高圧送電線路直江川跡線5号塔
建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書

1999年3月

中国電力(株)島根支店
斐川町教育委員会

三メ田遺跡

中国電力(株)特別高圧送電線路直江川跡線 5号塔
建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書



島根県斐川町の位置

1999年3月

中国電力(株)島根支店
斐川町教育委員会

序 文

斐川町は神話の国として知られる出雲地方の中心に位置し、築地松が散在する北部田園地帯には美しい景観をつくりあげています。また、本町には荒神谷遺跡をはじめとする多くの文化遺産が残されており、文化的香り高いまちづくりの形成に重要な役割を担っていると言えましょう。

近年は町東部でゴルフ場、農業公園など観光開発、町西部では、企業誘致に伴う工業団地の造成が進んでいるところであります。

しかし、開発が進む一方で、私たちの先人が残してくれた、貴重な文化遺産が、破壊される危機に瀕しているのも事実であります。開発に伴い、埋蔵文化財の発掘調査も増加しておりますが、将来の文化向上発展のためにも、このような文化遺産を大切に守り、後世に継承していくことが、私たちの使命であると考えます。

今回の発掘調査では、これまでほとんど報告例のなかった奈良時代の丘陵上における総柱建物跡を確認することができました。残念ながら現段階では、その建物の性格を解明できてはおりませんが、今後の調査・研究により解明していきたいと考えております。

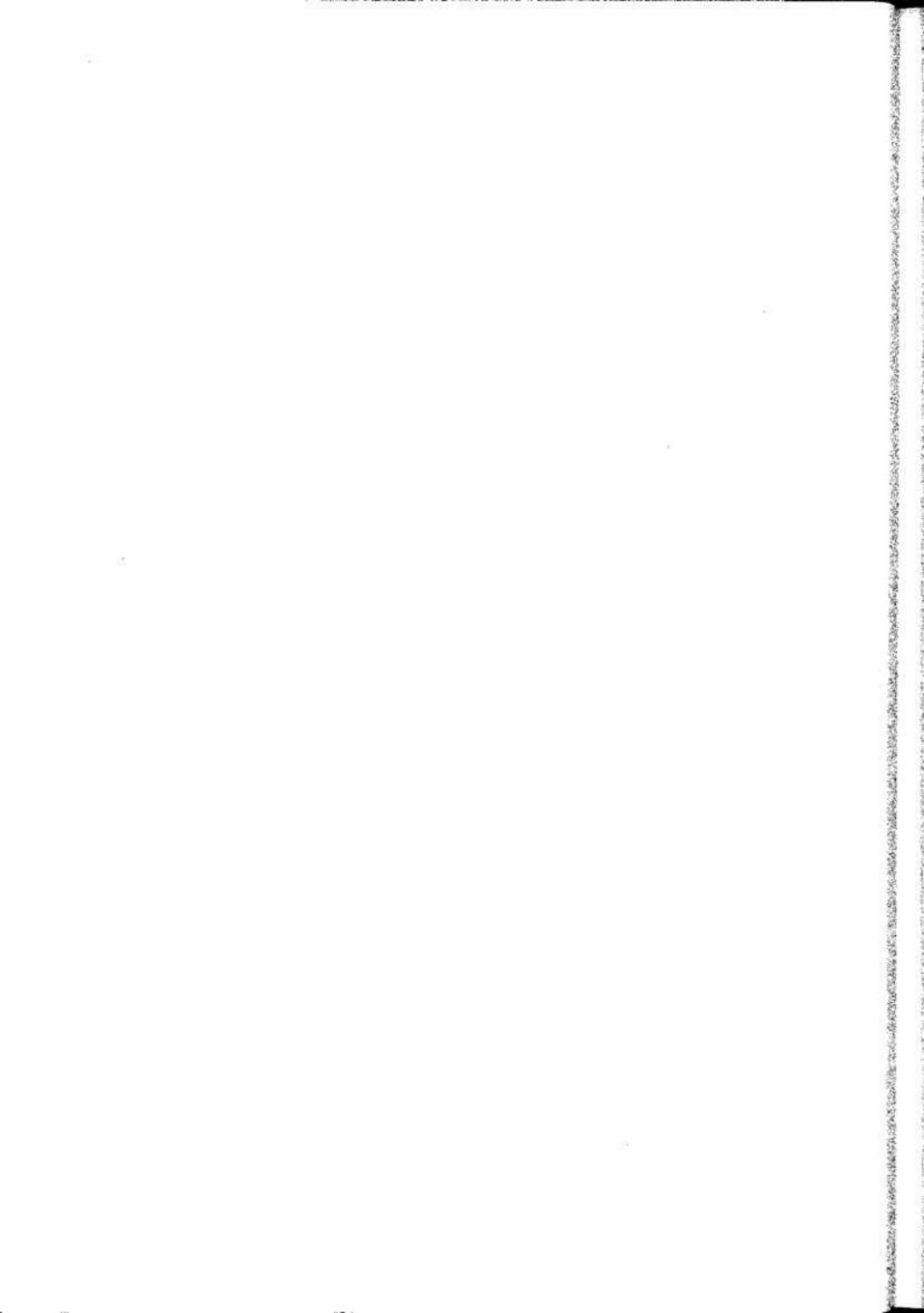
本書が教育のために活用されることで、広く埋蔵文化財に対する関心と理解が高まりますことを期待するととも、わたしたちのまち斐川町の過去の姿に思いをはせていただく一助となれば幸いに存じます。

末筆ではございますが、本調査及び、報告書作成にあたりまして、ご指導、ご協力頂いた皆様方に心からお礼申し上げます。

平成11年3月

斐川町教育委員会

教育長 村 上 家 次



例　　言

1. 本書は、中国電力㈱島根支店より委託を受けて実施した特別高压送電線路直江川跡線5号塔建設に伴う三メ田遺跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2. 調査は平成10年5月19日から6月4日に遺跡の有無確認調査、これに基づいて同年6月5日から9月11日の間に本調査を実施した。遺跡の所在地及び面積は次の通りである。

島根県簸川郡斐川町大字神水2560-1外 220m²

3. 調査組織は下記のとおりである。

調査主体 斐川町教育委員会

事務局 陰山 昇（斐川町教育委員会文化課長）

昌子裕江（同 文化係長）

調査担当者 陰山真樹（同 文化財係主事）

遺物整理 内田久美子、大田晴美

4. 調査実施にあたっては、下記の方々にご協力を賜った。（順不同・敬称略）

【助言・指導】

中山敏史（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター集落遺跡研究室長）、関 和彦（共立女子第二中・高等学校）、池田敏雄（斐川町文化財保護審議会委員）、西尾克己、守岡正司（以上島根県文化財課）、錦田剛志、東森 晋（島根県埋蔵文化財調査センター）、野坂俊之（湖陵町教育委員会）、宍道年弘、四方田三己、松本堅吾（以上斐川町教育委員会文化課）

【協力】

樋野富男、神門富栄、小林重子、樋野満男（以上地元協力）、岩井 浩、小笠原健、水元俊樹（以上中国電力㈱島根支店用地担当）、樋野喜久、陰山律雄、長谷川房夫、陰山正道、昌子滝市、昌子健二郎、池田 良、陰山百合子、陰山トミエ、樋野康江（以上調査作業員）、原 和幸、佐藤聖志、福田正弘、高橋隆太、日野雅洋（以上斐川東中学校職場体験学習参加者）、石橋雅也、吉野貴普、杉谷俊一郎、中島佑輔、後藤基聰、山田明生、青木博志、高橋太郎、山根 渉、永島健（以上斐川西中学校職場体験学習参加者）、足立真理子（斐川町教育委員会文化課）

5. 本書の執筆・編集は、協力者の助言、指導を得て陰山が行った。遺物の実測は陰山、内田、大田採拓は内田、大田、トレースは大田、写真撮影は松本、陰山が行った。

6. 本書に記載した第1図「三メ田遺跡と周辺の遺跡」では、1:5000の斐川町基本図を基に作成された1:25000の管内図を使用した。

7. 本調査によって得られた資料（出土遺物、実測図、写真）は、斐川町教育委員会で保管している。
8. 本書で、表記した遺構は、下記の略号を使用している。
- SB……掘立柱建物 SD……溝 SK……土坑 P……ピット（柱穴）
9. 地形図、遺構図に表記した方位は、座標北を表している。
10. 本書で使用した土壤色は、小山正忠・竹原秀夫編著『新版標準土色帖』1988を用いて命名しているが、本文中は色相・明度・彩度の数値を省略している。

目 次

序 文

例 言

目 次

I. 調査に至る経緯	1
II. 位置と環境	4
III. 調査の概要	6
1. 遺構	6
2. 出土遺物	13
IV. まとめ	16
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図	三メ田遺跡と周辺の遺跡（1：25000）	1
第2図	遺構配置図（1：500）	5
第3図	調査区平面図及び断面図（1：80）	7
第4図	SB01平面図及び断面図（1：80）	10
第5図	SB02平面図及び断面図（1：80）	11
第6図	SB03平面図及び断面図（1：80）	12
第7図	SK01平面図及び断面図（1：40）	12
第8図	出土須恵器実測図（1：3）	14
第9図	出土土師質土器・石器実測図（1：3）	15

表 目 次

表 1	三メ田遺跡と周辺の遺跡一覧表	2
-----	----------------	---

図版目次

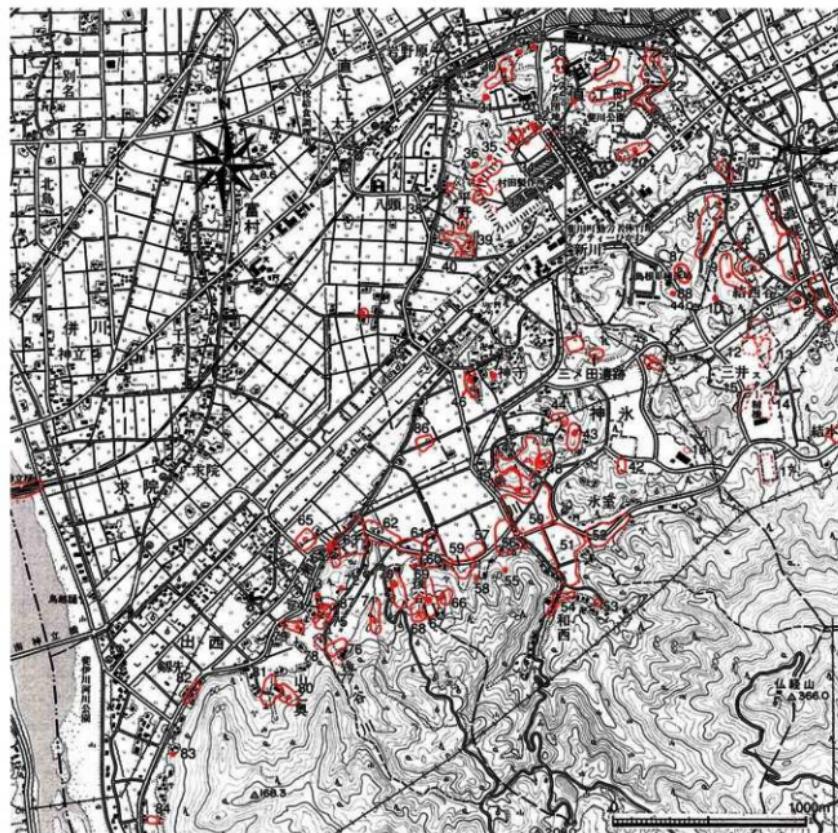
図版 1	SB01土層断面図（1：40）
図版 2	SB01土層断面図（1：40）
図版 3	SB03土層断面図（1：40）
図版 4	調査地遠景・調査前
図版 5	調査風景・調査区東側全景
図版 6	調査区西側全景・調査区土層断面
図版 7	SB01検出状況・SB01完掘状況
図版 8	SB01-P3断面・SB01-P3完掘状況
図版 9	SB01-P6断面・SB01-P6完掘状況
図版10	SB01-P15断面・SB01-P15完掘状況
図版11	SB02完掘状況・SB03完掘状況
図版12	須恵器蓋出土状況・SB01付近礎盤出土状況
図版13	出土須恵器①
図版14	出土須恵器②・土師質土器・石器

I章 調査に至る経緯

電力の安定供給を図るために、中国電力㈱により斐川町の直江変電所から出雲市の川跡変電所間に新たに特別高圧送電線路直江川跡線が計画され、斐川町においては、その区間17箇所に鉄塔が建設されることとなった。

着工に先立ち、中国電力㈱島根支店より斐川町教育委員会に埋蔵文化財の有無を確認する分布調査の依頼があった。5号塔建設予定地は、低丘陵の尾根上に位置し、周知の遺跡ではないものの、周辺に遺跡が存在する位置環境から試掘調査を実施することにした。

試掘調査の結果、奈良時代の遺物が検出されたことにより、遺跡の存在が認められた。このことから、鉄塔建設予定地のうち尾根上の平坦面及び緩斜面220m²を本調査することとなり、遺跡名を字名から三メ田（みしめでん）遺跡と命名した。



第1図 三メ田遺跡と周辺の遺跡 (1 : 25000)

表1 三メ田遺跡周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	種別	台帳番号	概要
1	三メ田遺跡	斐川町神水	散布地		掘立柱建物跡、須恵器、土師質土器、磨製石斧
2	結西谷I遺跡	斐川町直江	散布地	59	須恵器、磁器
3	八斗跡I遺跡	斐川町直江	散布地	153	須恵器、磁器
4	八斗跡II遺跡	斐川町直江	散布地	154	須恵器、土師器
5	堀切II遺跡	斐川町直江	散布地	74	須恵器
6	堀切瓦出土地	斐川町直江		175	軒丸瓦
7	堀切III遺跡	斐川町直江	散布地	75	須恵器、石鏡
8	堀切I遺跡	斐川町直江	散布地	73	須恵器
9	堀切古墳群	斐川町直江	古墳群	72	2基・1号墳(円墳)、2号墳(墳形不明)
10	三井古墳	斐川町上直江	古墳	56	方墳
11	三斗跡遺跡	斐川町直江	古墳群 散布地	171	円墳4基、方墳3基・鉄刀、鉄剣、鉄鎌、須恵器、土師器他
12	三井I遺跡	斐川町直江	住居跡	168	柱穴、須恵器、土師器他
13	結西谷古墳群	斐川町直江	古墳群	62	2基・1号墳(墳形不明)、2号墳(円墳)
14	結西谷III遺跡	斐川町直江	住居跡	151	須恵器、土師質土器、黒曜石
15	結西谷II遺跡	斐川町直江	住居跡	60	須恵器、磁気
16	直江石橋II遺跡	斐川町直江	散布地	165	須恵器、土師器他
17	直江石橋I遺跡	斐川町直江	住居跡	61	焼土壙、須恵器、土師器、石鏡他
18	有間谷遺跡	斐川町神水	散布地	166	須恵器
19	神水三メ田古墳群	斐川町神水	古墳群	100	2基以上
20	斐川公園内古墳群	斐川町直江	古墳群	79	2基・1号墳(円墳)、2号墳(方墳か)
21	新市I遺跡	斐川町直江	散布地	77	土師器
22	狼山城跡	斐川町直江	城跡	31	山城、古鏡
23	狼山土師器出土地	斐川町直江		160	古式土師器壺
24	新市III遺跡	斐川町直江	散布地	141	須恵器、土師器
25	新市II遺跡	斐川町直江	散布地	140	須恵器、磁器
26	西中学校横遺跡	斐川町直江	散布地	69	須恵器
27	新市横穴群	斐川町直江	横穴群	78	3穴以上
28	新屋敷古墳	斐川町直江	古墳	76	
29	中前古墳	斐川町直江	古墳	66	方墳か
30	岩野原古墳群	斐川町上直江	古墳群	10	5基
31	岩野原横穴群	斐川町上直江	横穴群	14	3穴
32	平野横穴群	斐川町上直江	横穴群	139	横穴19穴・鉄刀、鉄製巻、刀子、鉄鎌、金環、勾玉、須恵器、土師器他
33	結遺跡	斐川町直江～三絡	古墳群 住居跡	57	古墳29基・11号墳(方墳・櫛標、蛇行鉄劍、鉄鎌刀子)、10号墳(円墳・削竹形木棺、小剣)、17号墳(円墳・円筒埴輪、須恵器)、建物跡3ヵ所、繩文土器、石鏡、石匙、石斧他
34	平野古墳群	斐川町上直江	古墳群	55	4基以上
35	コモゴ山横穴群	斐川町上直江	横穴群	43	2穴・須恵器
36	剣山横穴群	斐川町上直江	横穴群	11	4穴・直刀・須恵器
37	平野I遺跡	斐川町上直江	散布地	1	弥生土器、土師器
38	平野II遺跡	斐川町上直江	散布地	80	須恵器
39	龜山城跡	斐川町上直江	城跡	173	山城
40	龜山横穴	斐川町上直江	横穴	48	須恵器
41	上ヶ谷遺跡	斐川町神水	散布地		繩文土器、須恵器、土師器、石錘、磨製石斧、田下駄
42	結南遺跡	斐川町直江～三絡	散布地	164	須恵器、土師器
43	神水古墳群	斐川町神水	古墳群	84	5基・1・5号墳(円墳)、2～4号墳(方墳)
44	神守II遺跡	斐川町神水	散布地	89	
45	神守古墳群	斐川町神水	古墳群	81	円墳2基

46	神守城跡	斐川町神水	城跡	174	山城
47	城山城跡	斐川町神水	城跡	159	山城
48	城山東古墳群	斐川町神水	古墳群	87	方墳4基以上
49	城山古墳群	斐川町神水	古墳群	54	15基・1~7号墳(方墳)、11~12号墳(円墳)、8~10・13~15(墳形不明)、2号墳(劍片、砥石他)
50	水室I遺跡	斐川町神水	散布地	82	須恵器
51	水室IV遺跡	斐川町神水	散布地	143	弥生土器、須恵器、土師器
52	水室II遺跡	斐川町神水	散布地	83	須恵器
53	和西II遺跡	斐川町神水	散布地	190	土師質土器、陶磁器
54	和西I遺跡	斐川町神水	散布地	86	須恵器、土師器
55	新在古墳	斐川町神水	古墳	90	
56	水室III遺跡	斐川町神水	散布地	116	須恵器、土師器
57	小野遺跡	斐川町神水	散布地	191	須恵器、土師質土器、陶磁器
58	外ヶ市古墳	斐川町神水	古墳	12	横穴式石室、須恵器他
59	外ヶ市I遺跡	斐川町神水	散布地	88	須恵器、土師器
60	後谷I遺跡	斐川町出西	散布地	96	須恵器
61	稻城遺跡	斐川町出西	散布地	198	呪符木彫、須恵器、土師器
62	後谷V遺跡	斐川町出西	官衙跡	197	礎石建物跡、掘立建物跡、竪穴式住居、縄文・弥生土器、須恵器、土師質土器、白磁、墨書き土器
63	後谷II遺跡	斐川町出西	散布地	97	須恵器、磁器
64	沢田横穴群	斐川町出西	横穴群	33	
65	沢田I遺跡	斐川町出西	散布地	103	青磁、土師質土器
66	押屋古墳群	斐川町出西	古墳群	192	円墳3基
67	長者原古墳群	斐川町出西	古墳群	91	9基(可能性含む)・軌立貝状の前方後円墳、円墳
68	海の原遺跡	斐川町出西	散布地	195	須恵器、土師器
69	後谷古墳	斐川町出西	古墳	44	44円墳
70	稻城丘陵古墳群	斐川町出西	古墳群	158	
71	後谷東古墳群	斐川町出西	古墳群	49	円墳2基
72	後谷町道脇古墳	斐川町出西	古墳	107	横穴式石室
73	八幡宮横穴	斐川町出西	横穴	18	
74	後谷丘陵古墳群	斐川町出西	古墳群	193	円墳1基、方墳3基
75	後谷III遺跡	斐川町出西	散布地	98	須恵器
76	後谷IV遺跡	斐川町出西	散布地	99	須恵器、土師器
77	稻城古墳群	斐川町出西	古墳群	15	
78	登道古墳	斐川町出西	古墳	45	円墳
79	出西小丸古墳群	斐川町出西	古墳群	13	3基・1号墳(横穴式石室、閉塞石に門状の陽刻、子持巣)、2号墳(横穴式石室)
80	山ノ奥横穴群	斐川町出西	横穴群	16	23穴以上
81	山ノ奥III遺跡	斐川町出西	散布地	102	須恵器、土師器
82	中出西IV遺跡	斐川町出西	散布地	101	土師器、土師質土器
83	剣先横穴群	斐川町出西	横穴群	94	2穴以上
84	中出西II遺跡	斐川町出西	散布地	194	土師質土器、陶磁器
85	出西伊波野一里塚	斐川町出西~伊波野	一里塚	32	2基
86	神守I遺跡	斐川町神水	散布地	85	土師器
87	杉沢遺跡	斐川町上直江	住居跡 古墳群		竪穴式住居、弥生土器、古墳4基、古式土師器、鉄劍
88	杉沢横穴群	斐川町上直江	横穴群		3穴以上
89	斐伊川鉄橋遺跡	斐川町併川~出雲市	散布地	119	弥生土器、古式土師器

第Ⅱ章 位置と環境

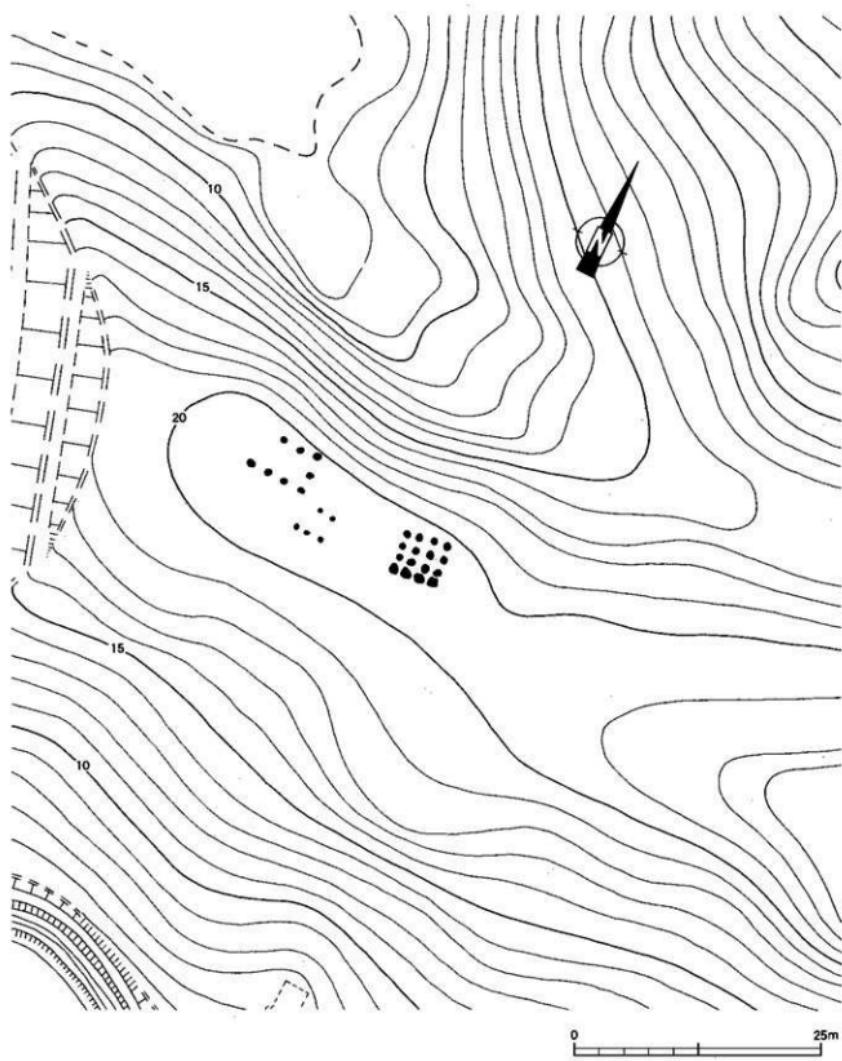
斐川町は、島根県東部の宍道湖西岸に立地し、神話の国として知られる出雲地方の中心に位置する。島根県の穀倉地帯である簸川平野は、古代からたびたび氾濫をおこす暴れ川で出雲大川ともいわれる斐伊川が上流から運ぶ土砂の堆積によって形成された沖積地である。また、この平野に散居する家々の西側と北側には「築地松（ついじまつ）」とよばれる防風林があり、独特の田園風景がひろがっている。

斐川町全体を地形的に概観すると、北側は第1級河川の斐伊川によって形成された沖積地が展開し町面積の約50%を占める。南側の残り約50%については標高366mの仏経山（神名火山）を中心とする山地を含め、山地から派生する低丘陵によって形成されている。

遺跡の分布をみてみると、北側の沖積地にはほとんど確認されておらず、その大半が南側の山地や低丘陵地帯あるいは低丘陵に囲まれた谷部に集中している。主要な遺跡として昭和59年に358本の銅剣、翌年の昭和60年には6個の銅鐸と16本の銅矛が、それぞれ出土した荒神谷遺跡（国史跡）、全長48m以上の前方後円墳である神庭岩船山古墳（県指定文化財）や直径32m、高さ5mの円墳である小丸子山古墳（町指定文化財）、現在は直径30m、高さ3mの円墳で、もともとは前方後円墳であったと考えられている軍原古墳などの古墳時代中期の古墳、奈良時代頃の出雲郡衙の正倉跡と推定される後谷遺跡、仏経山から連なる山々の一つである高瀬山には、中世頃に出雲で勢力をふるっていた尼子氏の家臣で、出雲十旗の一つに数えられる米原氏の居城の高瀬城がある。これらの遺跡はすべて南部の山地や低丘陵地帯に立地する。

当該遺跡周辺の遺跡では、北方100mの位置には、縄文中期の土器が出土した上ヶ谷遺跡、東方300mには、2基以上の古墳が確認された神氷三メ田古墳群、西に500mのところで円墳2基が存在する神守古墳群、南側約400mの位置には円墳2基と方墳3基が確認された神氷古墳群と、土器の散布地として周知された神守II遺跡などがあり、調査区周辺に古代の人々の生活の痕跡がうかがえる。また、調査区北側の丘陵上には、筑紫街道が東西にのびており、平安時代に菅原道真が九州を下るときに通ったという伝承や、遺跡の北西200mのところに現存する不動堂の前を大名が馬に乗ったまま通ったら落馬したので道を南側に付け替えたと言う伝えが残っている。

当調査区は、氷室地区と神守地区のちょうど境界にあたる、低丘陵の尾根上平坦面及び緩斜面に位置しており、標高約20mの山林である。



第2図 造構配置図 (1 : 500)

第Ⅲ章 調査の概要

調査地の現況は山林で標高約20mを測り、東西にのびる尾根上に南北約5mの平坦面から緩斜面・急斜面と続く地形となっている。

基本的な層序は、上から表土（I）、ぶい黄褐色土（II）、褐色及び明褐色土（III）、地山（IV）の順に堆積している。遺構面は（III）で、遺物は（I）から磨製石斧及び奈良時代の須恵器が出土し、（II）からも同じく奈良時代の須恵器が出土している。

検出された主な遺構は、掘立柱建物3棟、土坑1基である。

1. 遺構（第3図、図版5・6）

SB01（第4図、図版7）

調査区の東側で検出された総柱構造の3間（4.38m）×3間（3.90m）の東西棟掘立柱建物跡である。建物は南側はほぼ尾根上の平坦面に立地しているが、北側は緩斜面に立地しており、標高差は約1.2mを測る。床面積は17.08m²で、柱間寸法は桁行1.46m等間、梁行1.30m等間を測り、主軸方向はN-8°-Wである。

検出した柱穴は16個であり、掘り方は大きさ・形・深さとも一定ではない。また、その柱穴16個のうち10個の柱穴で根石に使用されたと思われる風化礫が検出された。出土遺物はP5西側で須恵器の甕・壺片が数点出土している。

P1

建物の南西隅に位置する柱穴で、掘り方は梢円形をしており、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺0.94m、短辺0.80m、深さ0.49mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.42m、短辺0.31mを測り、掘り方の土層はほぼ3層に分かれる。

P2

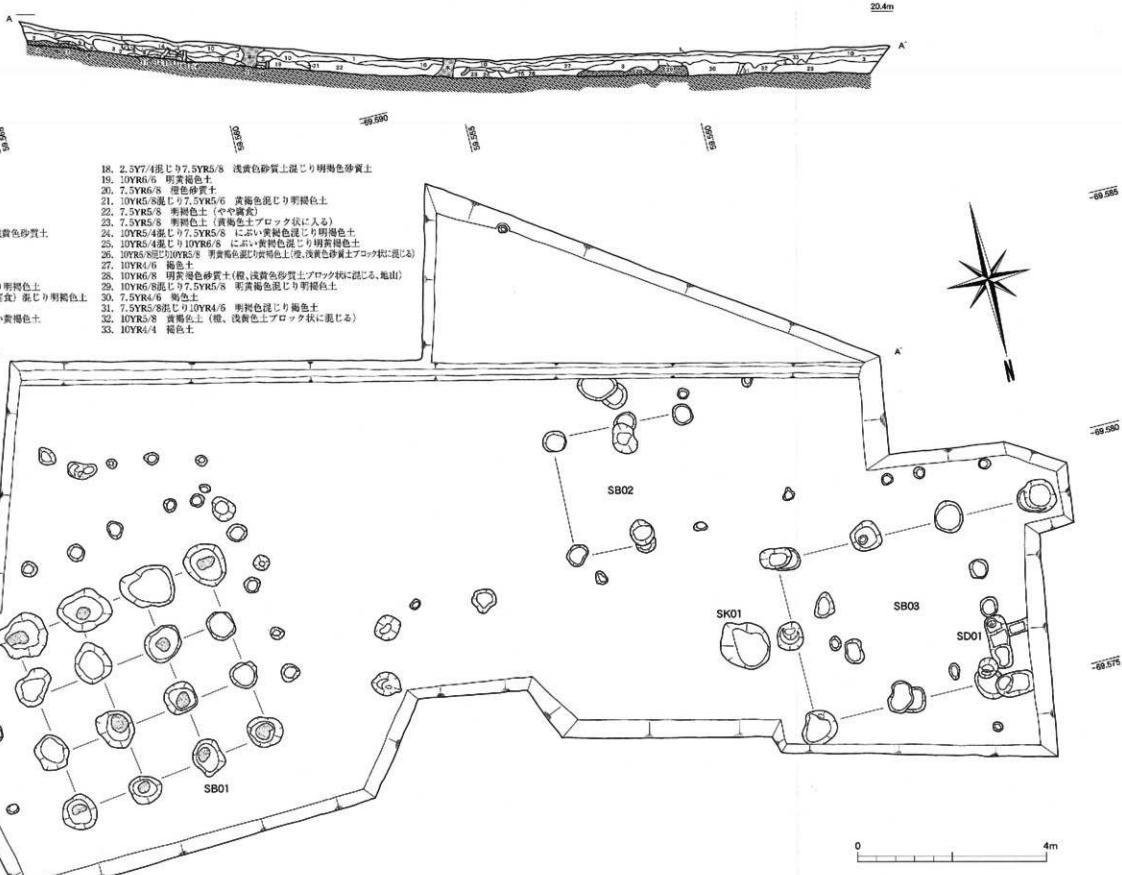
掘り方は梢円形をしており、西側は地山面にほぼ垂直に、東側はやや斜めに掘り込まれていて、長辺1.14m、短辺0.86m、深さ0.60mを測り、他の柱穴よりも比較的大きく、深い。柱痕が認められ、長辺0.36m、短辺0.35mを測り、掘り方の土層は西半はほぼ3層に、東半は2層に分かれる。

P3（図版8）

掘り方は梢円形をしており、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺1.16m、短辺0.84m、深さ0.77mを測り、他の柱穴よりも比較的大きく、深い。底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.50m、短辺0.39mを測り、掘り方の土層は西半は複雑に堆積し、東半は3層に分かれる。

P4

建物の南東隅に位置する柱穴で、掘り方は不整形で、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺1.10m、短辺0.92m、深さ0.82mを測り、他の柱穴よりも比較的大きく、深い。底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.39m、短辺0.29mを測り、掘り



第3図 調査区平面図及び断面図（1：80）

方の土層は西半は3層に東半は1層である。

P5

掘り方は不整形な円形をしており、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺0.64m、短辺0.54m、深さ0.17mを測り、他の柱穴よりも小さく、極端に浅い。柱痕が認められ、長辺0.33m、短辺0.29mを測り掘り方の土層はほぼ2層に分かれれる。

P6 (図版9)

掘り方は不整形な円形をしており、西側は地山面にはほぼ垂直に、東側はやや斜めに掘り込まれている。長辺0.88m、短辺0.68m、深さ0.43mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.37m、短辺0.32mを測り、掘り方の土層は3層に分かれれる。

P7

掘り方は不整形で、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺0.90m、短辺0.74m、深さ0.59mを測り、柱痕が認められ、長辺0.48m、短辺0.34mを測り、掘り方の土層は西半は2層に、東半は4層に分かれれる。

P8

掘り方は不整形で、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺0.86m、短辺0.60m、深さ0.70mを測り、柱痕が認められ、長辺0.35m、短辺0.31mを測り、掘り方の土層は3層に分かれれる。

P9

掘り方は不整形な円形をしており、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺0.60m、短辺0.56m、深さ0.17mを測り、他の柱穴よりも小さく、極端に浅い。柱痕が認められ、長辺0.38m、短辺0.37mを測り掘り方の土層は1層である。

P10

掘り方は不整形な円形をしており、地山面に西側はほぼ垂直に、東側はやや斜めに掘り込まれている。長辺0.74m、短辺0.66m、深さ0.41mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.39m、短辺0.34mを測り掘り方の土層は西半は2層に、東半は3層に分かれれる。

P11

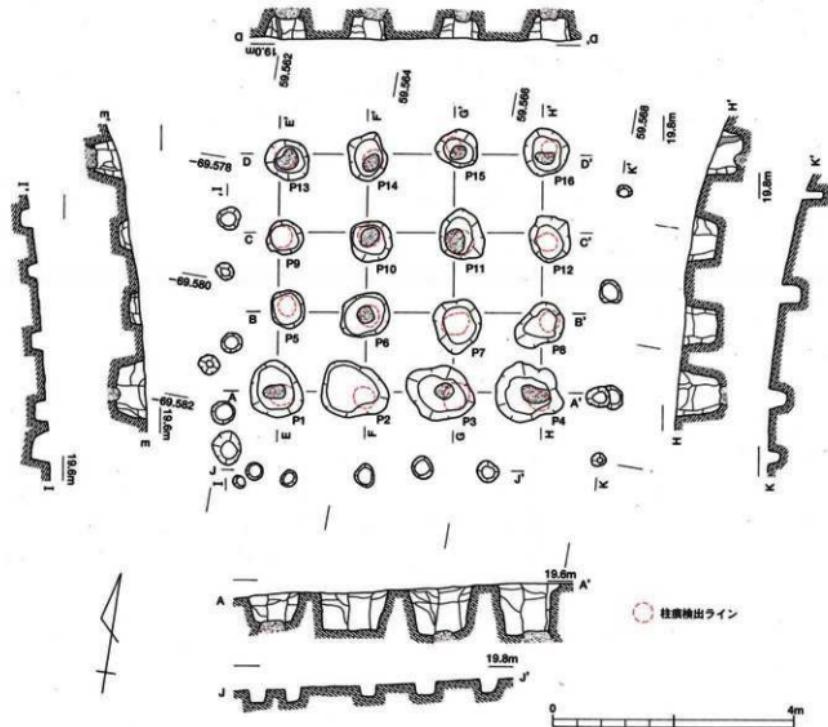
掘り方は不整形で、地山面に西側はほぼ垂直に、東側はやや斜めに掘り込まれている。長辺0.88m、短辺0.66m、深さ0.43mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.41m、短辺0.37mを測り、掘り方の土層は西半は2層に、東半はほぼ3層に分かれれる。

P12

掘り方は不整形な円形をしており、地山面にやや斜めに掘り込まれている。長辺0.74m、短辺0.70m、深さ0.43mを測る。柱痕が認められ、長辺0.34m、短辺0.29mを測り、掘り方の土層は3層に分かれれる。

P13

建物の北西隅に位置する柱穴で、掘り方は不整形な円形をしており、地山面にやや斜めに掘り込まれ



第4図 SB01平面図及び断面図 (1:80)

ている。長辺0.76m、短辺0.62m、深さ0.43mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.39m、短辺0.32mを測り、掘り方の土層は2層に分かれ
る。

P14

掘り方は不整形で、地山面に西側はやや斜めに、東側はほぼ垂直に掘り込まれている。長辺0.80m、
短辺0.58m、深さ0.39mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱
痕が認められ、長辺0.35m、短辺0.33mを測り、掘り方の土層は西半は3層に、東半は2層に分かれ
る。

P15 (図版10)

掘り方は不整形な円形をしており、地山面に西側はやや斜めに、東側はほぼ垂直に掘り込まれてい
る。長辺0.68m、短辺0.58m、深さ0.37mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化
礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.27m、短辺0.24mを測り、掘り方の土層は西半は3層に、東

半は2層に分かれる。

P16

建物の北東隅に位置する柱穴で、掘り方は不整形な円形をしており、地山面に西側はやや斜めに、東側はほぼ垂直に掘り込まれている。長辺0.76m、短辺0.72m、深さ0.47mを測り、底面には根石として使用されたと思われる風化礫が検出された。柱痕が認められ、長辺0.28m、短辺0.23mを測り、掘り方の土層は西半は3層に、東半は2層に分かれる。

SB01に関する主要な柱穴について観察を記してきたが、この他にもSB01の東・南・西側柱穴列の外側に17個のピットを検出した。これらは、SB01の柱穴と比較して小形で、深さは浅いもので0.18m、深いもので0.34mで

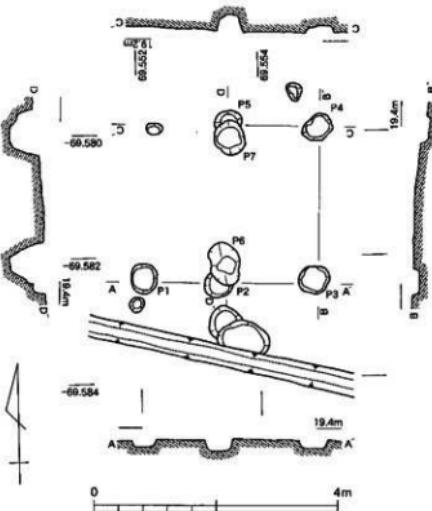
あった。注意すべきは、東・南・西側柱穴列にはほぼ平行しているものの柱筋上にほとんどないこと、また間隔・大きさ・深さが一定ではないことである。これらは建物構築時の足場穴、床下の柱を隠すための目隠塀、軒を支えるための軒支柱等が考えられるが、その位置や規模、埋土から建物構築時に使用された足場の痕跡の可能性が高いと思われる。

SB02（第5図、図版11）

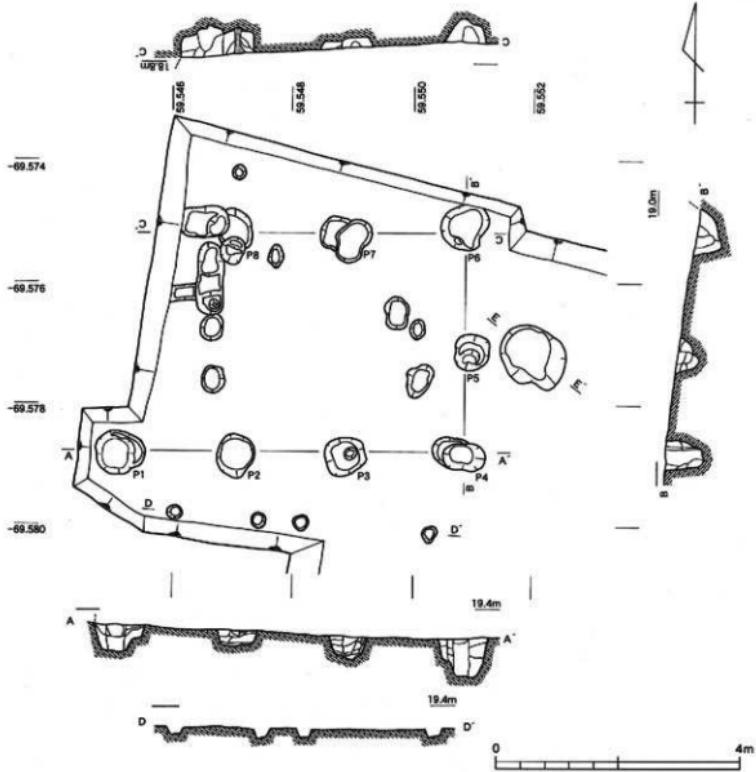
調査区の西側で検出された1間(2.58m)×2間(2.88m)の東西棟掘立柱建物跡で尾根上の平坦面上に立地している。床面積は、 7.43m^2 で柱間寸法は桁行2.58m等間、梁行1.44m等間を測り、主軸方向はN-2°-Wである。残念ながら北西隅の柱穴は検出することができなかつたが、検出したSB02を構成する柱穴は他の建物に比べると小さく、浅いものであった。注目すべきは、P2、P5と切り合ひ関係にあるP6、P7で、SB02を構成する柱穴に比べて深く、P6が0.56m、P7が0.46mを測る。これら2つのピットは互いに埋土から出土した甕片が接合したことから同時期のものと思われる。性格については現段階でははっきり判明できないが、その位置や深さ、埋土から判断してSB02とは関係のないものと思われる。出土遺物はP7の埋土から甕片の他に坏片が出土した。

SB03（第6図、図版11）

調査区の西側で検出された側柱構造の3間(5.58m)以上×2間(3.60m)の東西棟掘立柱建物跡で南北の緩斜面上に立地している。柱間寸法は桁行1.86m等間、梁行1.80m等間を測り、主軸は南北



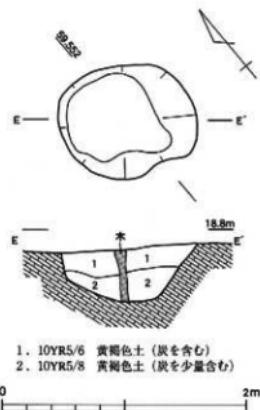
第5図 SB02平面図及び断面図 (1:80)



第6図 SB03平面図及び断面図（1:80）

座標上である。西側は調査区外に展開するため桁行は3間以上としかいえないが、この段階での床面積は、 20.09m^2 を測る。掘り方はほぼ円形、楕円形や不整形なものと一定ではなく、深さも浅いもので0.18m、深いもので0.64mとばらつきがあった。柱痕はP1～P7で確認することができ、さらにはP3では底部に凹が認められた。この凹はおそらく柱の位置を示すものと思われる。出土遺物はP2南側で須恵器の蓋片が1点、P8南側付近の溝状の遺構から須恵器の甕片が2点出土している。

また、SB03の南・北側の柱穴列外側に5個のピットを検出した。これらはピットの大きさ・深さはほぼ一定であるが、SB03の柱穴と比較して小形で、柱筋上にないことや位置にばらつきある点では、SB01付近のピット群と同様であ



第7図 SK01平面図及び断面図（1:40）

る。こういった点から性格について推測すると、建物構築時の足場穴の可能性が高いと思われる。

SK01（第7図）

SB03の東側に位置する性格不明の不整形な円形の落ち込みで、長辺1.16m、短辺1.04m、深さ0.90mのものである。内部の土層は2層に分かれるが、2層とも黄褐色土に炭化物が混じった層になっている。土坑内からは土師質土器の坏底部が出土した。

2. 出土遺物（第8・9図、図版13・14）

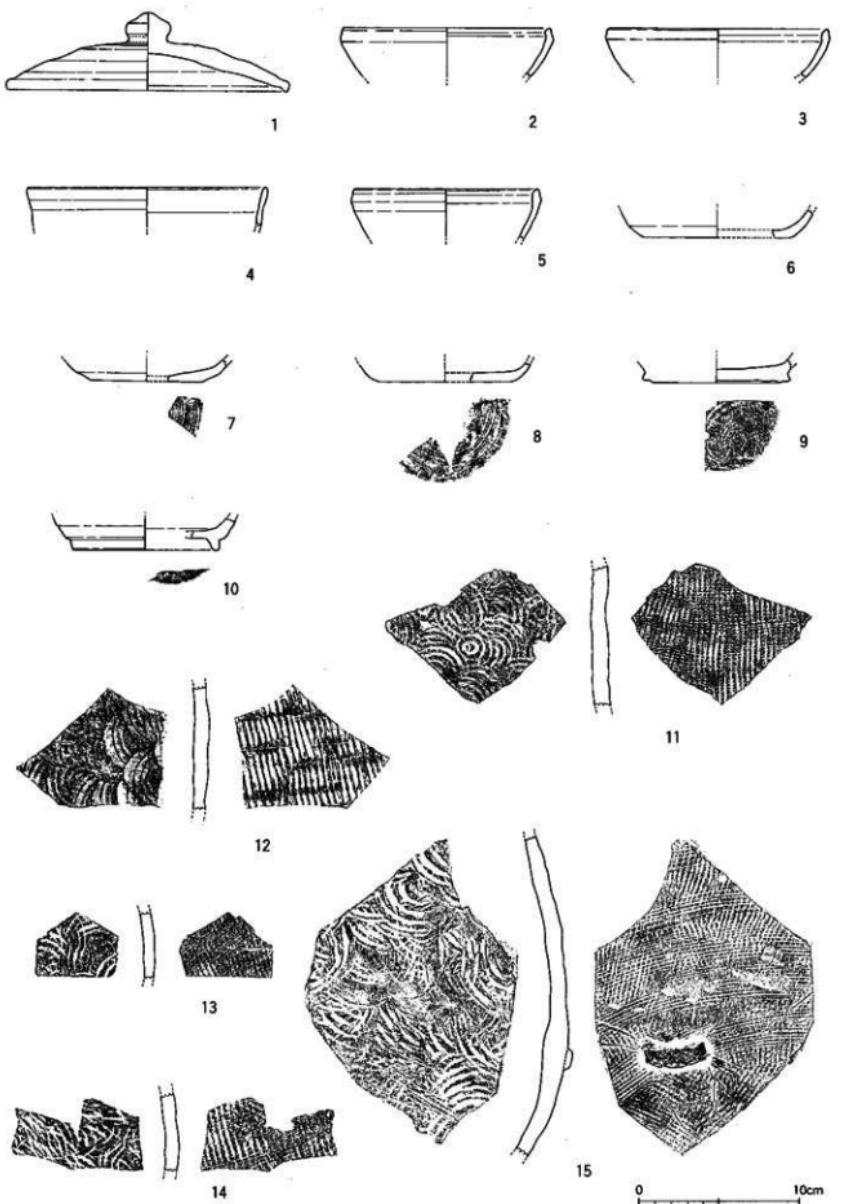
遺物としては、調査区全体で須恵器、土師質土器、磨製石斧が確認された。

1は須恵器の蓋である。宝珠形のつまみを有し、口縁端部をわずかに垂下させ、口縁部外面には面を持つ。復元口径は17.4cmで、内外面とも灰色を呈し、胎土には2mm以下の砂粒をわずかに含む。焼成は良好で、調整は外面上部でヘラ削りが認められるが、その他は回転ナデである。SB03のP2南側でSB03検出面上面の黒褐色土より出土した。

2・3・4・5は須恵器の坏の口縁端部である。2は、復元口径は12.8cmを測り、口縁端部付近ではば垂直に立ち上がる。焼成は良好で、内外面とも灰色を呈し、胎土には2mm以下の砂粒をわずかに含む。調整は全体的に回転ナデである。SB01のP5西側で第2層より出土した。3は、復元口径は12.8cmを測り、口縁端部付近で垂直に立ち上がる。焼成は良好で、内面は灰色、外面は青灰色を呈し、胎土には2mm以下の砂粒をわずかに含む。調整は全体的に回転ナデである。出土位置、層は2と同様である。4は、復元口径は14.8cmを測り、口縁端部付近でわずかに外側に開く。焼成は良好で、内外面とも灰色を呈し、胎土には1mm以下の砂粒をわずかに含む。調整は全体的に回転ナデである。SB02内のP7の埋土より出土した。5は、復元口径は11.4cmを測り、口縁端部付近で内外面にやや肥厚し、垂直に立ち上がる。焼成は良好で、内外面とも灰色を呈し、胎土は密である。調整は全体的に回転ナデである。SB03内で第2層より出土した。

6・7・8は須恵器の高台の付かない坏の底部と考えられる。6は底径9.2cmを測り、焼成は良好で、内外面とも灰色を呈し、胎土には2mm以下の砂粒をわずかに含む。調整は全体的に回転ナデであり、底部に糸切り痕を残す。調査区中央で第2層より出土した。7は底径6.8cmを測る。焼成は良好で、内外面とも灰色を呈し、胎土は密である。調整は全体的に回転ナデであり、底部に回転糸切り痕を残す。SB02の南側で第2層より出土した。8は底径8.4cmを測り、焼成は良好で、内外面とも灰色を呈し、胎土には2mm以下の砂粒を含む。調整は全体的に回転ナデであり、底部に回転糸切り痕を残す。SB01のP5西側で第2層より出土した。

9・10は須恵器の高台を有する坏の底部と考えられる。9は僅かに高台を有し、底径は9.2cmを測り、焼成は良好で、内面は灰黄色、外面は灰色を呈し、胎土は密である。底部は回転糸切りの後、ナデ調整を施している。埋め戻しの際に検出された。10は底径9.2cmを測り、焼成は良好で、内外面とも灰色を呈し、胎土は密である。調整は全体的に回転ナデである。調査区南側拡張部で第2層より出土した。

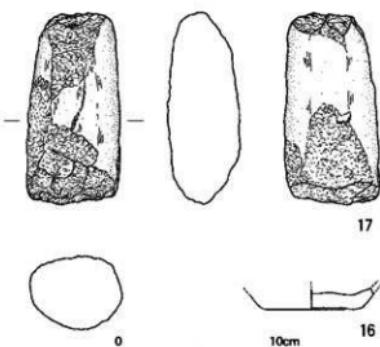


第8図 出土須恵器実測図 (1:3)

11～15は須恵器壺の肩部と思われ、外面に平行叩き目、内面には同心円状のあて貝痕跡が認められる。14はSB02内のP6、P7の埋土から出土した破片を接合したものである。

16はSK01の埋土から出土した土師質土器の皿の底部と考えられ、底径6.4cmを測る。焼成は不良で、内外面とも褐色を呈し、胎土は4mm以下の砂粒を多く含む。調整は摩滅のため確認できなかった。

17は磨製石斧である。色調は灰白色で全長11.9cm、最大幅4.5cm、最大厚4.6cm、重量は515gを測る。石材は流紋岩で、調査区中央で表土より出土した。



第9図 出土土師質土器・石器実測図（1：3）

第IV章 まとめ

今回の三メ田遺跡の発掘調査では、約100m 北の谷部で平成8年度の上ヶ谷遺跡の調査で認められた奈良時代頃の遺物とほぼ同時代のものが出土したことによって、同時期の生活域の広がりを確認することができた。また、これまでほとんど報告例のなかった奈良時代の丘陵上における総柱建物跡を検出することができた。しかし、残念ながら今回の調査で検出された建物群については、調査範囲が狭く、出土遺物もわずかということもあり、その性格を判断するまでには至らなかった。そのため、ここでは建物の構造及び立地等からいくつかの可能性を指摘するにとどめたい。

まず SB01については、周辺から出土した須恵器片から奈良時代頃の建物跡と考えられる。構造は、建物内側の柱穴が側廻りの柱穴とほぼ平均的な大きさであることから、すべての柱が東柱となり、床の上下で別構造となる総東柱構造の高床倉庫の可能性が考えられる。また、3間(4.38m) × 3間(3.90m)で正方形に近い平面形態から校倉構造の建物であることも想定される⁽¹⁾。ただし、厳密に観察した場合に側廻りの柱穴で一部やや小形で浅いもの(P5、P9)については、今後の検討が必要と考える。性格については、建物の規模から一般集落に付随する倉庫とは考え難く、もう少し堅固で高質な倉庫というイメージがある。もし、収穫物の剩余生産物収納の場としての倉庫であれば、もう少し平地にあるべであろう。可能性をあげるとすれば、手がかりとなる遺物は出土していないものの、有力者の宝物等を収納する倉庫が考えられる。また、東出雲町の春日シヌン谷遺跡⁽²⁾のように平野から奥まった丘陵斜面に立地する建物跡で、祭祀施設と想定されているものがある。三メ田遺跡は丘陵の尾根上という立地的な違いはあるものの、平野部から離れている点が同様であることから、祭祀施設という見方もできるのではないだろうか。その他、当該遺跡から西南へ約1kmのところに出雲郡家関連の正倉跡が存在し、同時期の遺物が出土していることから、何らかの関連があったことも考えられる。

SB03については、建物の西側は調査区外のため規模は分からぬが、側柱構造の掘立柱建物である。出土した須恵器片より奈良時代頃のものと思われ、性格については SB01が倉庫の場合、その管理施設が考えられる。しかし、SB01の性格がはっきりしない現段階では判然としない。

また、SB01、SB03付近には平行してピット群が検出された。注意すべきは、建物の柱穴と比較して小形であり、間隔や大きさにばらつきがあること、柱穴列には平行しているものの、柱筋上にないことである。似たような例として、県内では出雲国山代郷正倉跡⁽³⁾があり、建物構築時の足場穴と報告されている。このピット群もその位置や規模、埋土から足場の痕跡の可能性が考えられる。

前述のとおり、建物群の性格については、いずれも根拠として弱く、断定はできないが、ここでは可能性としてあげておくにとどめたい。

今回の調査によって得られた資料は、今後、報告例が増えると予想される奈良時代における丘陵上の建物の性格解明の手がかりとして貴重なものになると思われる。これから的研究や周辺部の調査、あるいは資料の増加に期待したい。

(註)

- (1) 植木 久「古代日本における高床式建築の変遷ーとくに校倉構法の採用を中心としてー」
浅川滋男編『先史日本の住居とその周辺』1998年
- (2) 島根県教育委員会『北松江幹線新設工事・松江連絡線新設工事予定地内 球藏文化財発掘調査報告書』1987年
- (3) 島根県教育委員会『史跡出雲国山代郷正倉跡』1981年

〔参考文献〕

- 田辺昭三『須恵器大成』1981年
山本 清「山陰の須恵器」「山陰古墳文化の研究」1971年
日本考古学協会茨城大会実行委員会・ひたちなか市『シンポジウム3 地方官衙とその周辺』1995年
吉野健志「広島県西本6号遺跡ー飛鳥時代の大規模祭殿跡ー」「情報祭祀考古第5号」1996年
埼玉県岡部町教育委員会『中宿遺跡発掘調査報告書』1995年
東広島市教育委員会・跡東広島市教育文化振興事業団
『第4回安芸まほろばフォーラム 発掘された古代の「神殿」を検討する資料集』1997年
島根県教育委員会『横路古墓遺跡調査概要』1999年
松江市教育委員会『芝原遺跡』1989年
斐川町教育委員会『後谷V遺跡』1996年
斐川町教育委員会『上ヶ谷遺跡』1998年

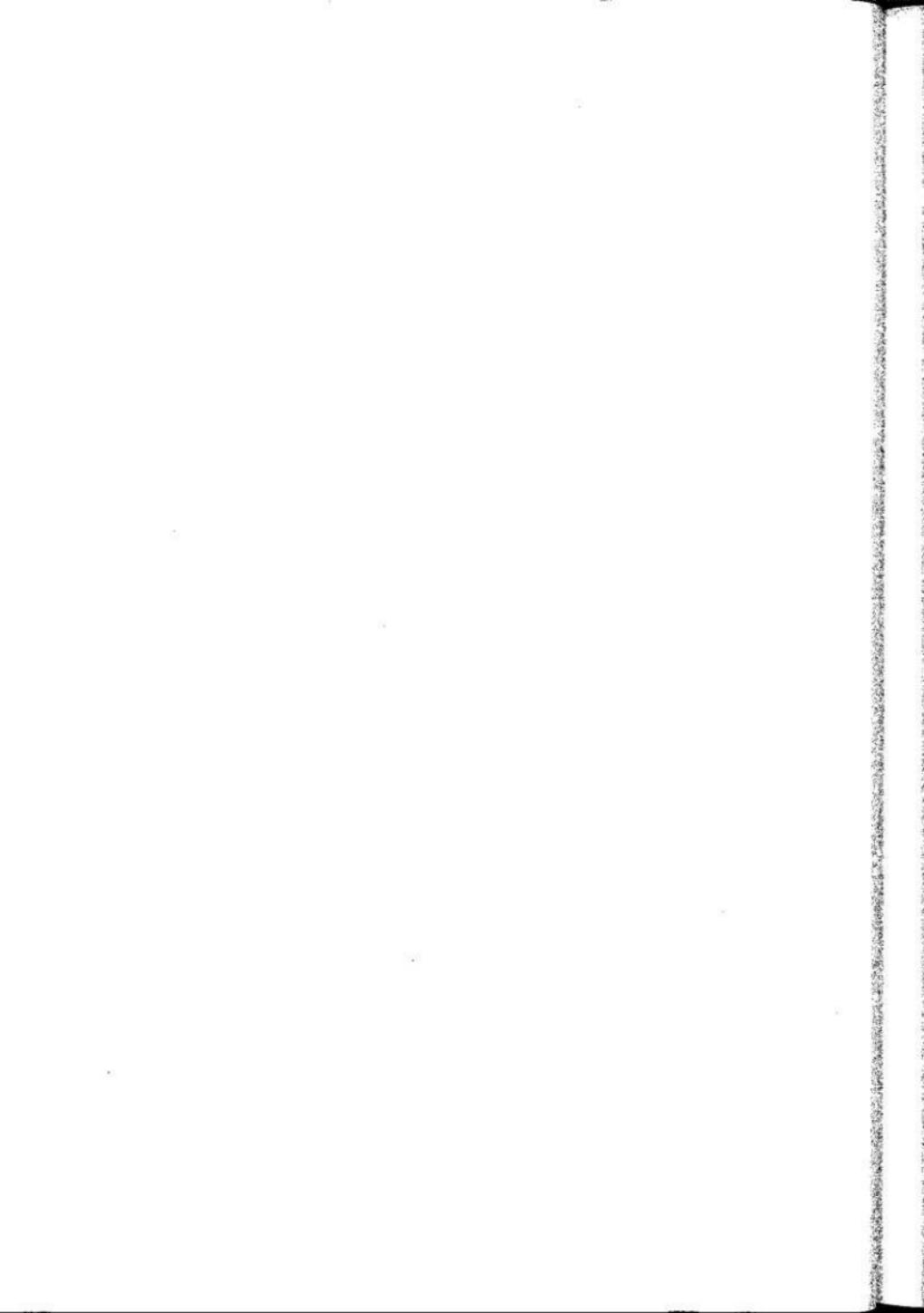
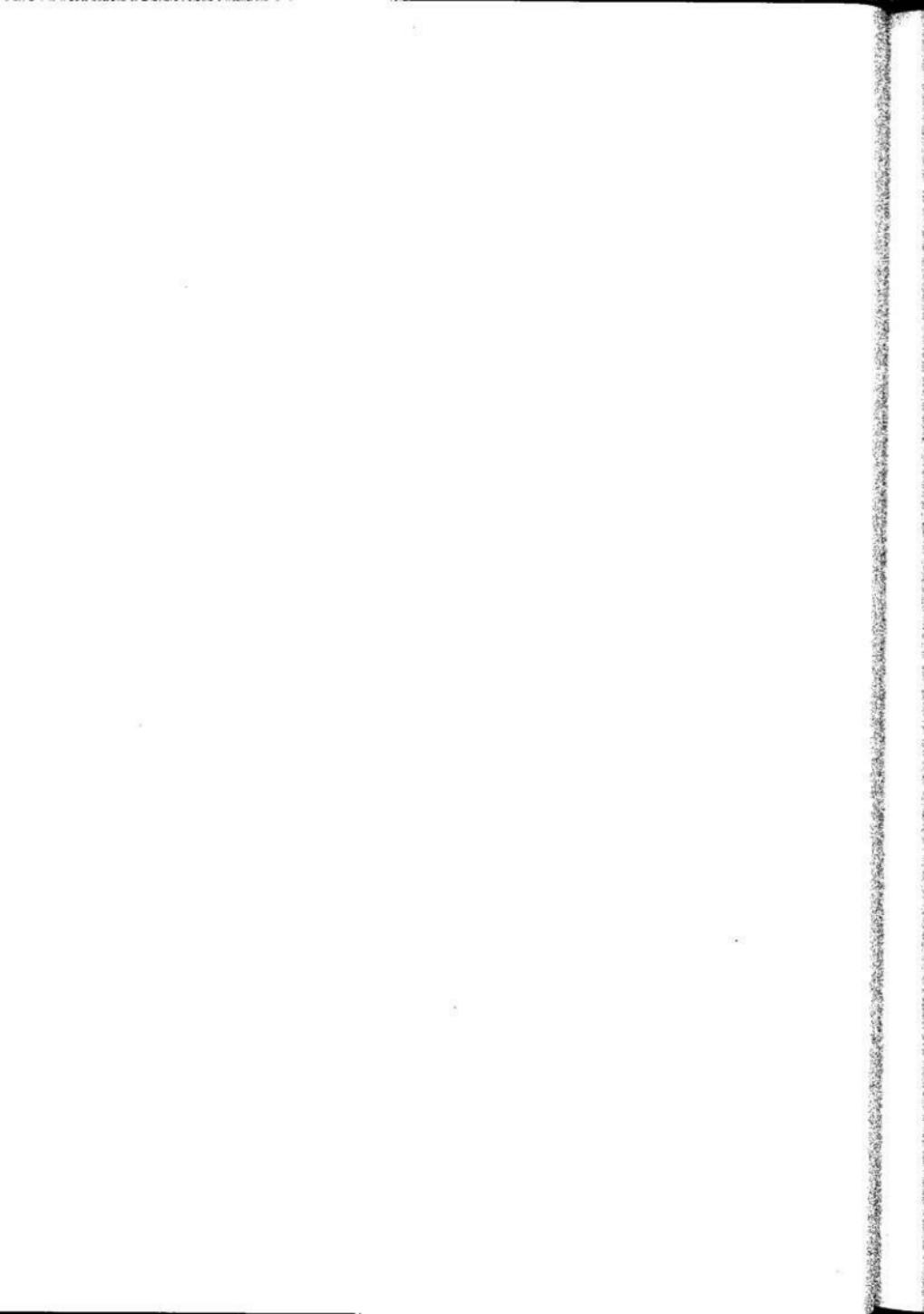
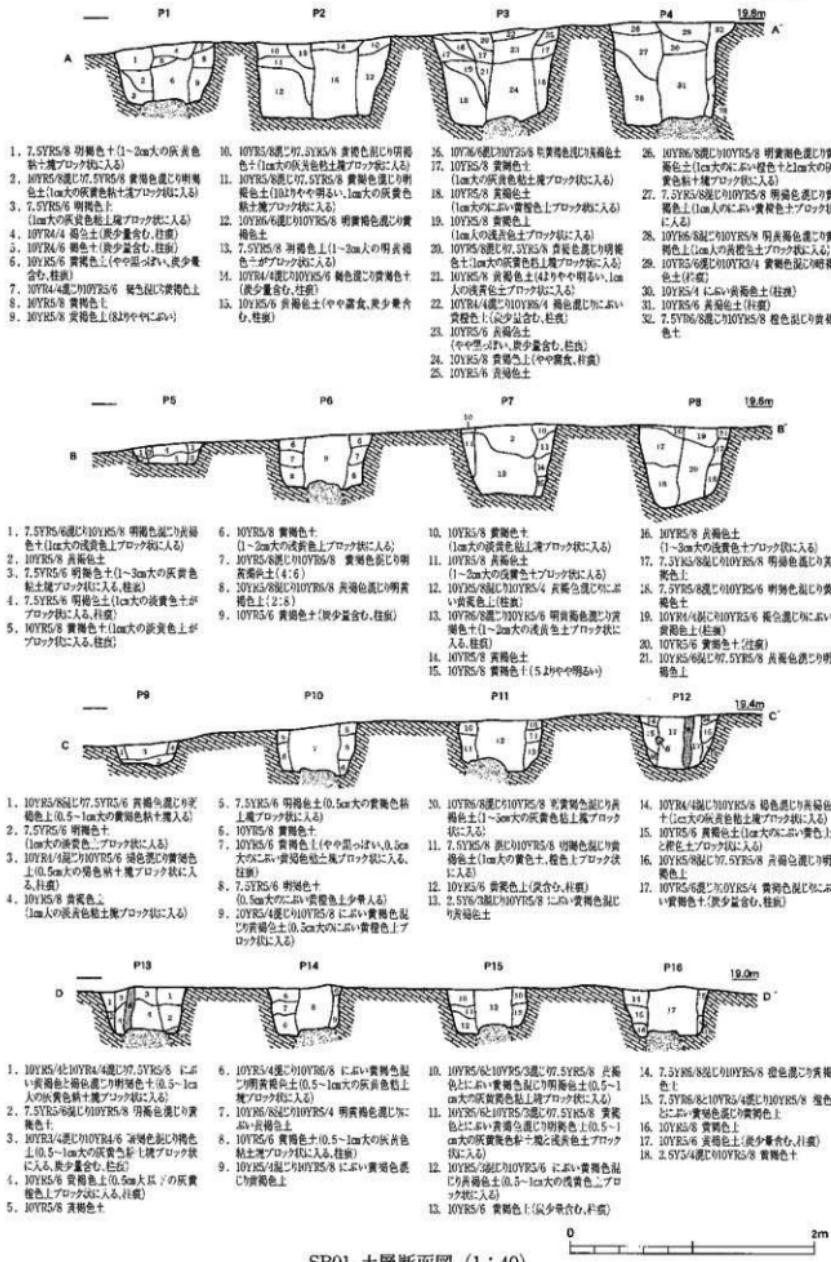


図 版

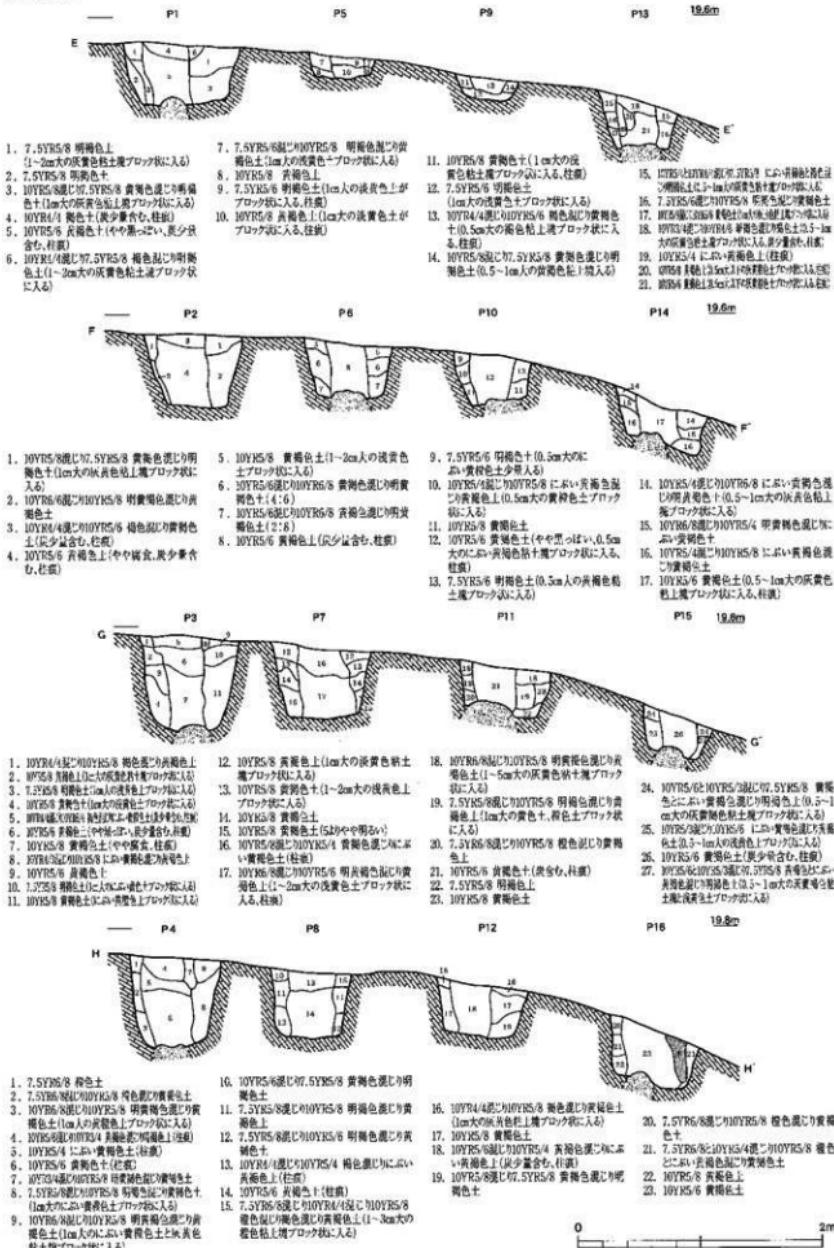


四版 1

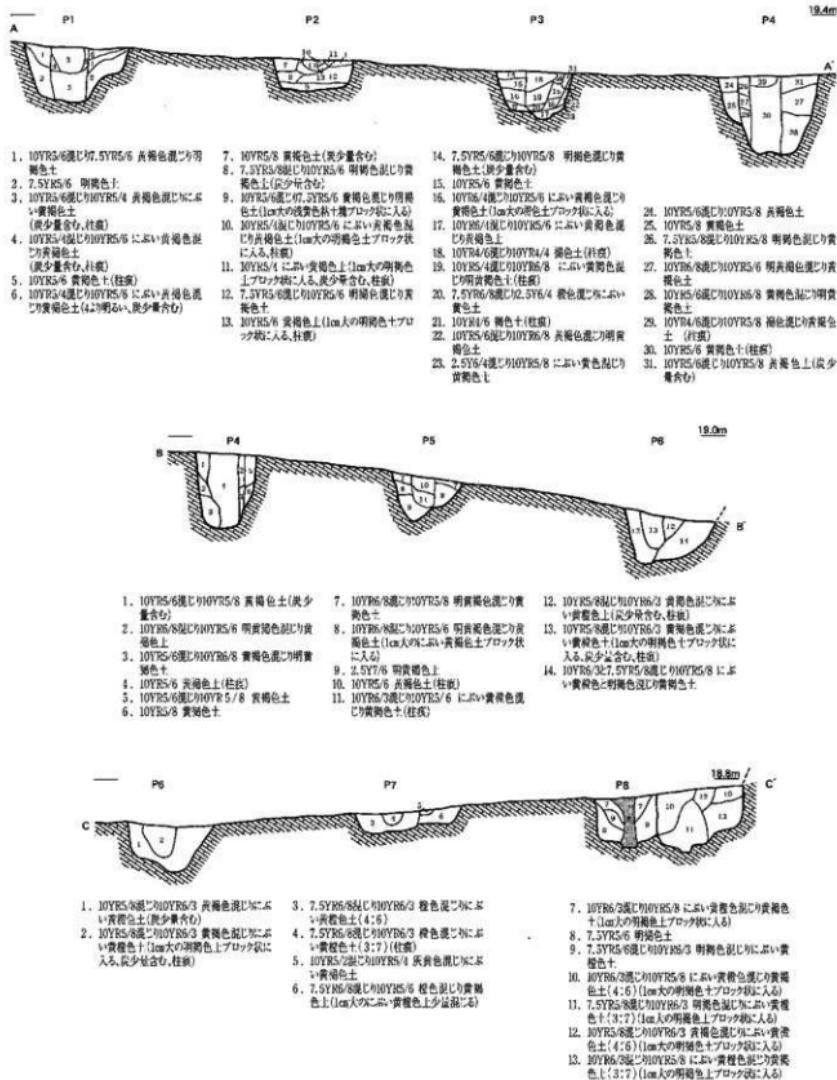


SB01 土層断面図 (1:40)

図版 2



SB02 土壌断面図 (1:40)



SB03 土層断面図 (1:40)



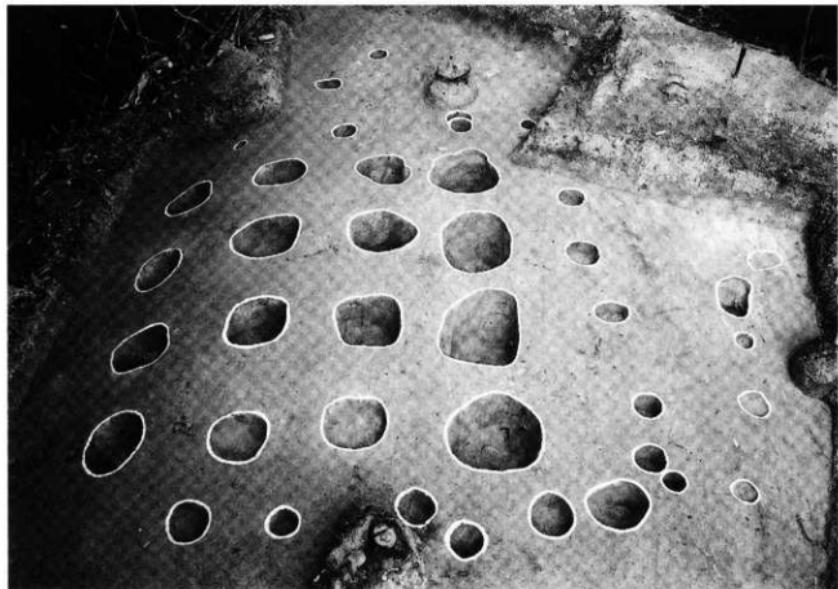
調査地遠景（北西から）



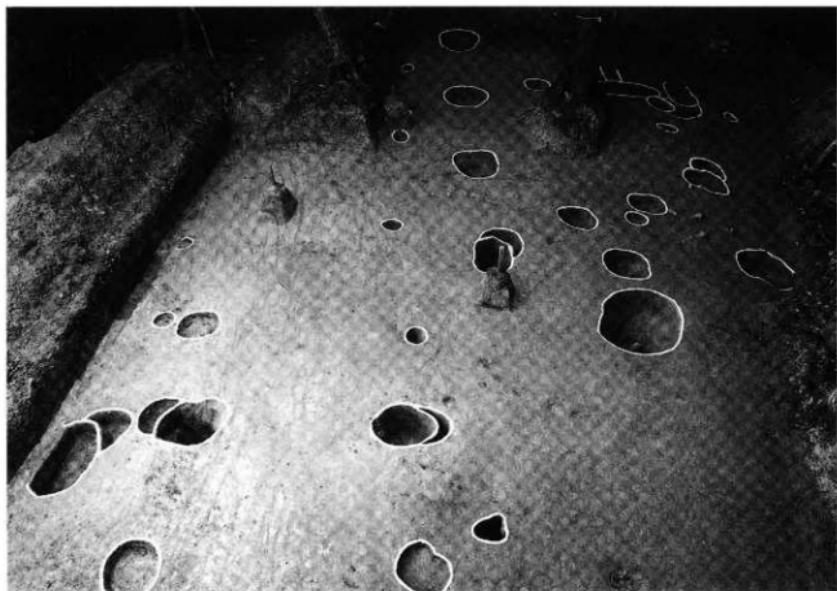
調査前（西から）



調査風景（西から）



調査区東側全景（西から）



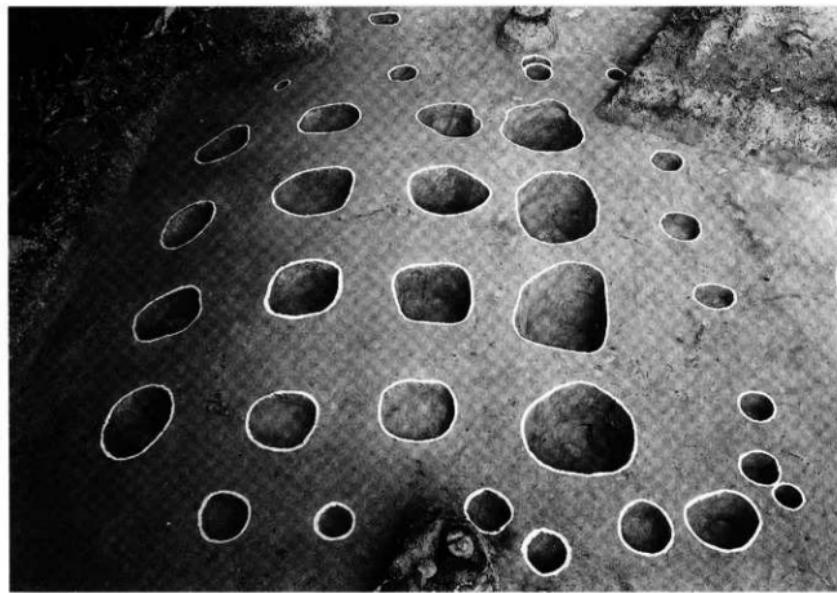
調査区西側全景（東から）



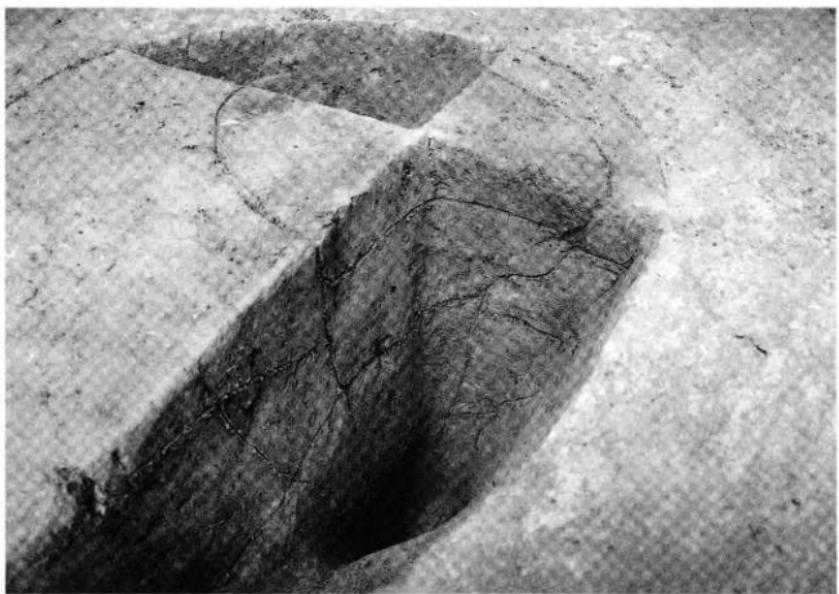
調査区土層断面（北東から）



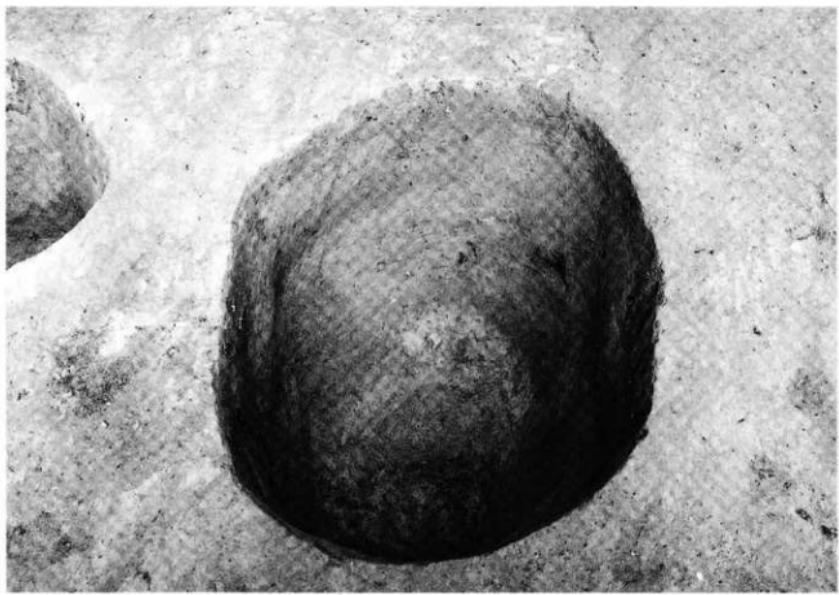
SB01 検出状況（西から）



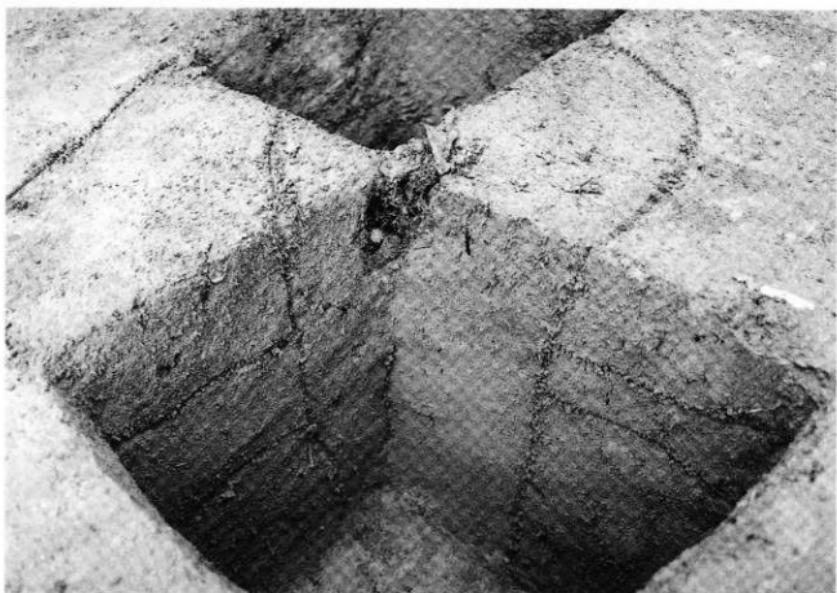
SB01 完掘状況（西から）



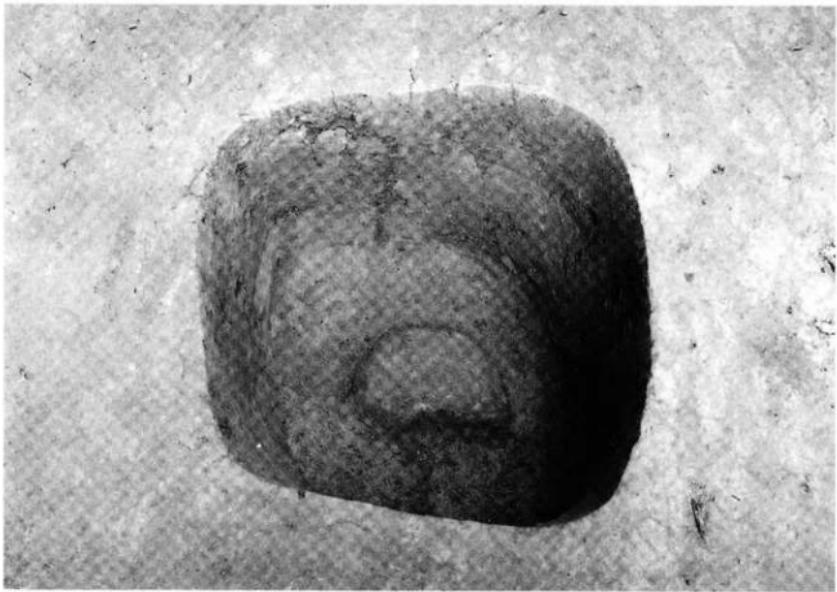
SB01-P3 断面（南西から）



SB01-P3 完掘状況（西から）



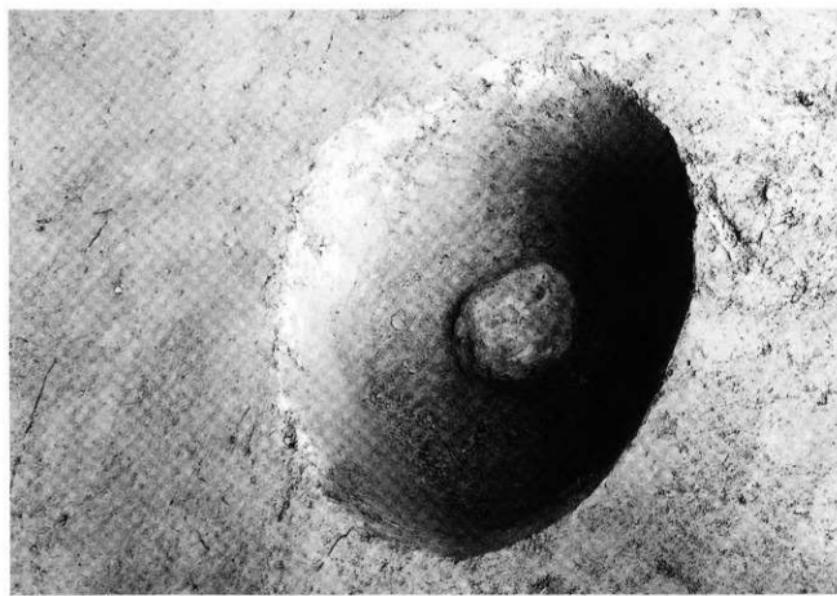
SB01-P 6 断面（南西から）



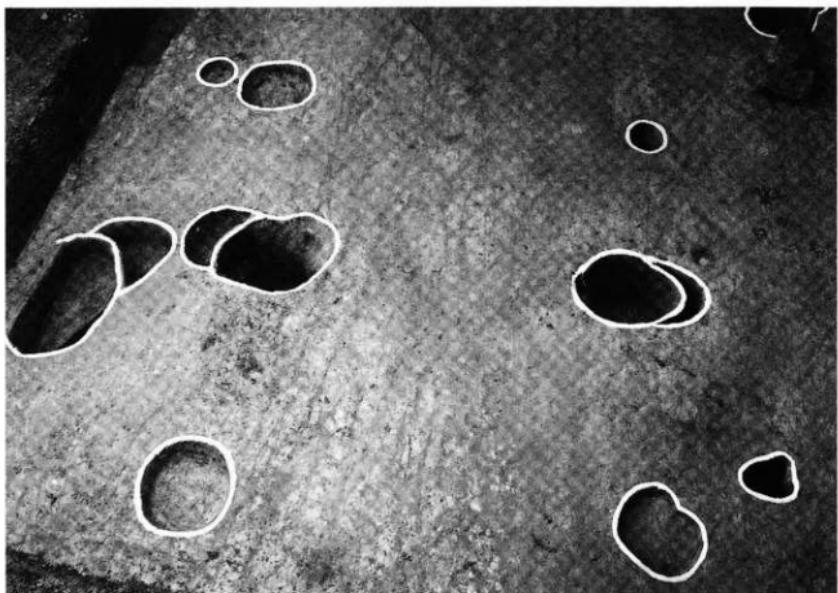
SB01-P 6 完掘状況（西から）



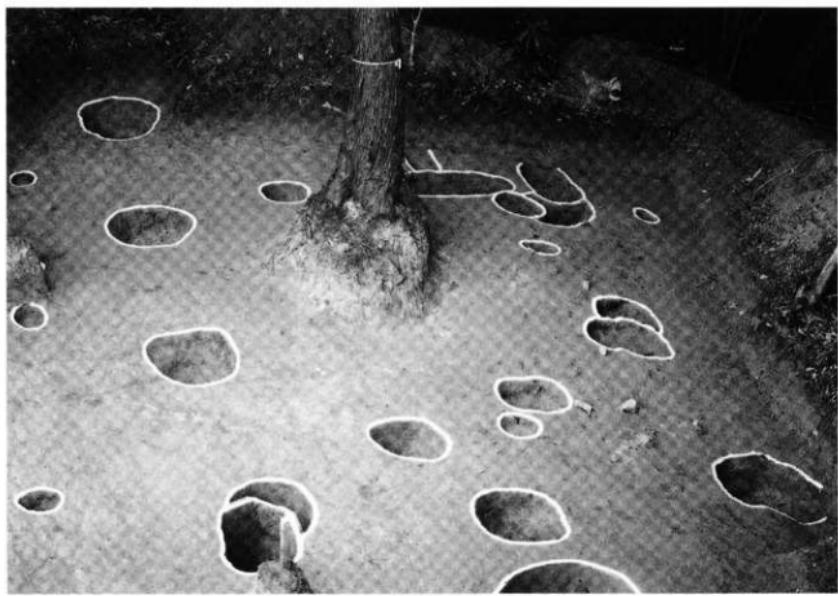
SB01-P15 断面 (南東から)



SB01-P15 完掘状況 (西から)



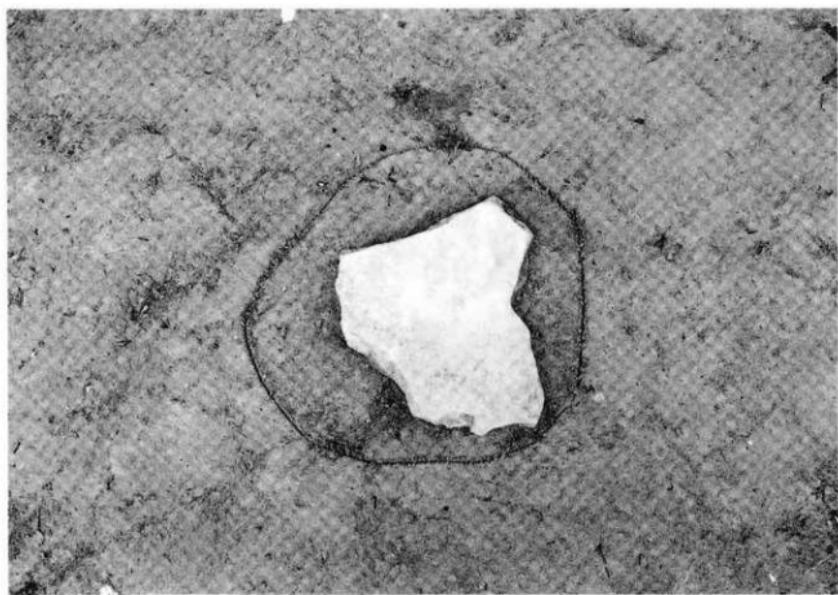
SB02 完掘状況（東から）



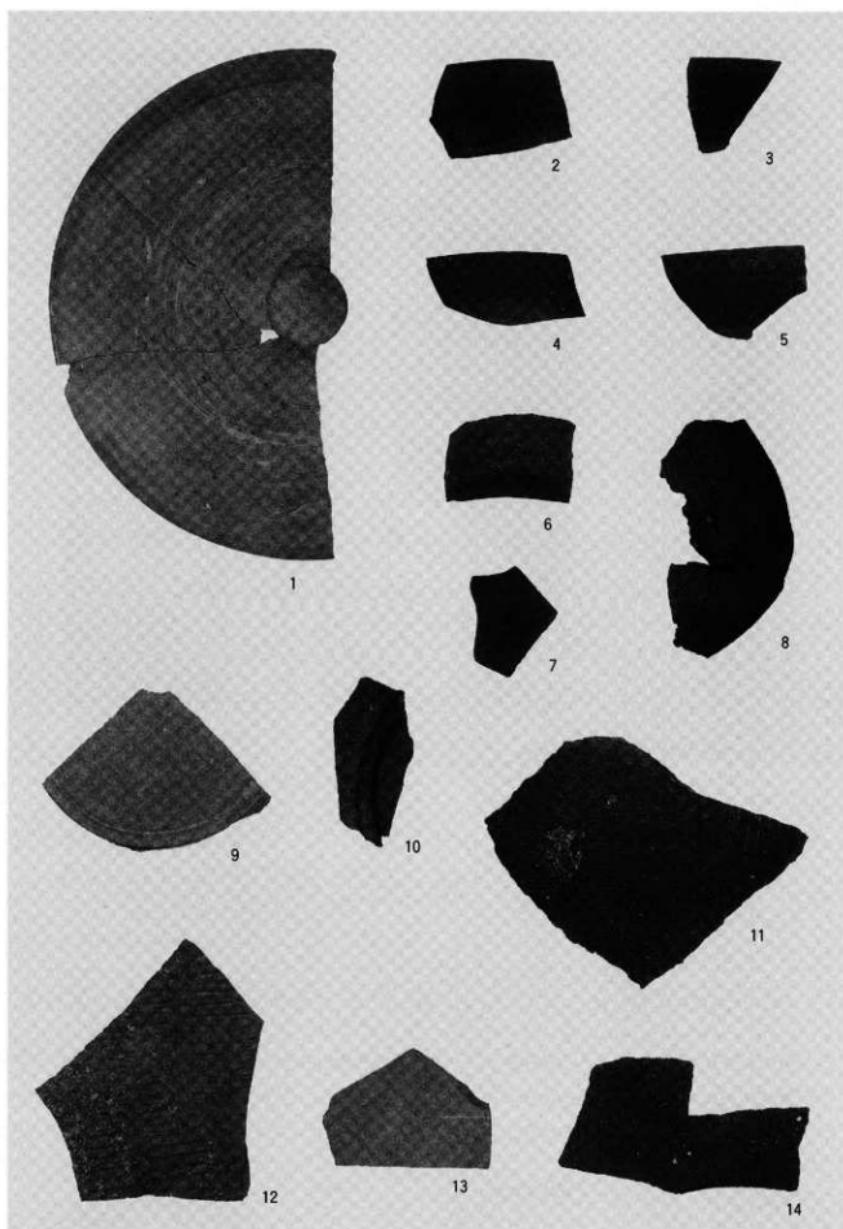
SB03 完掘状況（東から）



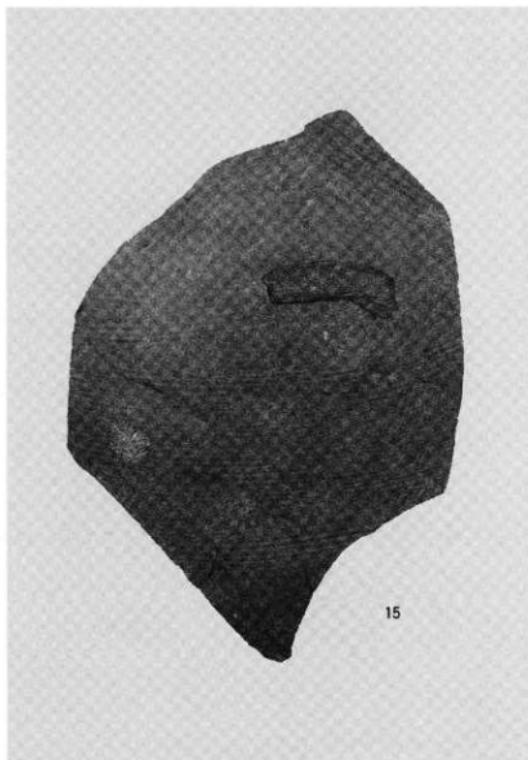
須恵器蓋出土状況（北から）



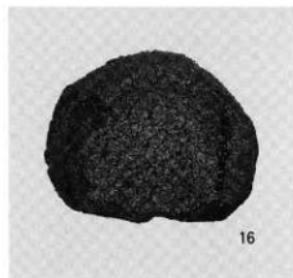
SB01 付近礎盤出土状況（南から）



出土須恵器 ①



出土須惠器 ②



出土土師質土器



出 土 石 器

報告書抄録

ふりがな	みしめでんいせき						
書名	三メ田遺跡						
副書名	中国電力㈱特別高圧送電線直江川跡線路5号塔建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	斐川町文化財調査報告						
シリーズ番号	22						
編著者名	陰山真樹						
編集機関	中国電力(株)島根支店・斐川町教育委員会						
所在地	〒699-0592 島根県簸川郡斐川町大字莊原町2172番地						
発行年月日	西暦1999年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在名	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
みしめでんいせき 三メ田遺跡	しまねんひかわぐん 島根県簸川郡 おおざかんび 大字神水	32401	—	35度 27分 15秒	132度 49分 20秒	980519～ 980911 220m ²	高压送電線 鉄塔
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
三メ田遺跡	散布地	奈良・平安	掘立柱建物 土坑など	須恵器 土師質土器 磨製石斧	奈良時代の丘陵上 における縦柱建物 跡を検出		

斐川町文化財調査報告22

三メ田遺跡

中国電力㈱特別高压送電線路直江川路線5号塔
建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書

1999年3月

発行 中国電力㈱島根支店
島根県斐川町教育委員会
〒699-0592
島根県簸川郡簸川町大字花原町2172

印刷 ㈱報光社
島根県平田市平田町993